

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090600012	
法人名	社会福祉法人諏訪福祉会	
事業所名	かりんの里複合福祉施設認知症対応型高齢者グループホームかりん	
所在地	長野県諏訪市高島1-1-11	
自己評価作成日	平成25年10月16日	評価結果市町村受理日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 福祉事業部
所在地	長野県松本市巾上13-6
訪問調査日	平成25年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は上諏訪駅に近い立地で、ご面会の方が来訪し易い環境である。諏訪湖や高島城など地域に馴染みのある場所が近くにある。住み慣れた環境を生活の中で感じられる複合施設内に事業所がある為、併設しているユニット型地域密着型特養、および認知症対応型通所介護事業所との交流も盛んである。ボランティア活動によるフラダンスや福祉大学の受け入れなど施設外からの来訪もあり地域との関わりも多い。併設している事業所の専門職には管理栄養士や歯科衛生士がおり指導を受け栄養管理や口腔ケアに力を入れ取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームかりんは地域密着型サービスの複合福祉施設の中に位置し開所後5年を経る。地域密着型サービスとして、地区の行事や近隣住民の方々との付き合い、市役所の職員研修や福祉大学の実習性を受け入れる等、地域の一員・事業所としての役割を果たすよう取り組んで来られた。法人内の隣接施設や施設内の他事業と一体となり、委員会や研修等を積極的に行い、また運営推進会議も合同開催し、運営面や職員の資質や意欲向上等に成果を発揮している。また利用者の生活支援に於いても互いの参加や交流を通して、変化や楽しみのある暮らしを支援している。毎年の自己評価・外部評価を前向きに行い受け止め、様々な気づきを得ながら一つひとつ丁寧に取り組み、ケアサービス向上をめざし努力を重ねている事業所である。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(かりん)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
ユニット名(あやめ)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
事業所番号					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>「心の触れ合いと笑顔を大切に」という施設理念を各ユニット・正面玄関に掲示するとともに、新入職員にはオリエンテーションの中で、施設理念に関する講義に盛り込むとともに、業務中も利用者やご家族が来訪された際、意識して対応するよう心掛けている。</p>	<p>理念を各ユニットの入口に掲げ、日々の業務の中で気になる事がある場合は、声を掛け合い振り返りを促し、職員一人ひとりが実践に繋ぐよう取り組んでいる。また新入職員研修や各学習会の、折に触れて理念の確認を行い、職員間で共有を図っている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>自治会運営の避難訓練に参加させて頂いている。施設で行われる5月の防災訓練や10月の水防訓練は地域住民の方に参加して頂いている。今年度は8月の豪雨の際、地域住民はもとより観光にこられた方々の一時避難所として施設を開放した。暮れの餅つき大会・冬場の雪かきなど例年の行事は地域の方々と共にやっている。</p>	<p>日頃から複合施設として地域との付き合いを大切にしており、自治会の避難訓練や雪かき等に積極的に参加している。施設周辺の散歩時に挨拶や顔なじみの方々や立ち話を交わしたり、地区公民館のお祭りに利用者の作品を出品したり、餅つき会でついたお餅を、利用者と一緒に近所へ配る等、地域との交流を大切に取り組んでいる。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>http://www.kaigokensaku.jp/</p>	<p>民生委員や各自治区の見学等を受け入れている。また、施設長自らが、実習担当として福祉大学の講師や実習指導を務め、地域貢献の一助としている。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>年4回開催している。会議ではご利用者状況や職員構成、職員研修報告や事故・苦情・行事等の報告をさせて頂き、委員の皆さまより頂いた意見を介護サービスの運営に活かしている。</p>	<p>会議には利用者家族代表・民生委員・区長やボランティア・市や諏訪広域連合の担当者等及び複合施設内のそれぞれの担当者が出席し、ホームの状況を報告し、話し合いが行われている。今年度は会議の折に、避難訓練や認知症の学習会、施設の食事の試食等を組み入れ、参加や体験を通して理解を深め、具体的な意見を頂き運営に反映させている。また外部評価結果も報告している。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議はもちろん、行政主催の学習会や広域連合との連携を図っている。また今年度は介護相談員の受け入れを行い、実情をお伝えする事が出来た。</p>	<p>市の新人職員研修に活用して頂いたり、介護相談員の受け入れを行い、協力関係を築いている。又日頃から、業務上の問い合わせや相談等を行い、連携を図っている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営規定や重要事項説明書に明文化している。また、入職時のオリエンテーションや施設内研修では5月に「身体拘束廃止」の講座をとりいれ勉強会を実施している。拘束廃止委員会も設置し、法人全体として取り組んでいる。	法人内には「拘束廃止委員会」が設置されており、ホームからも担当職員が出席をして、内容の報告や会議録の回覧等を行い、また施設内研修に於いても職員に周知している。職員は、その時々の利用者の状態や気分に気を配り、目を行き届かせる事を申し合わせ、さりげない対応を心掛け支援している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に高齢者虐待防止関連の情報を収集し、他施設で起きてしまった虐待例を職員掲示板に掲示し職員に周知している。また、日々の業務の中でも虐待が見過ごされる事のないようスタッフへ周知し、虐待予防に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフは成年後見制度を利用している方がいる事は理解している。社協の金銭管理を利用している方もいる為、制度について更に知識が深まる様学習会を検討している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度十分な時間を確保し、キーパーソンになれる方はもとより、出来る限り介護に参加されている方に対して説明が行えるよう努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設玄関窓口に苦情・要望受け付け箱を設置し、苦情等があった場合には、ユニットおよび幹部会議で話し合い、改善策や回答を掲示している。また、1年に1回ご利用者様満足度調査アンケートを実施し、アンケートより頂いた内容についての回答も掲示している。苦情・要望受け付け簿の内容やアンケート結果については、運営推進会議においても報告している。今年度はユニット入り口に意見箱を設置し要望の把握に努めている。	今年度はユニット入口(玄関脇)に意見箱を設置し、何でも自由に書いて入れてもらえるよう設置場所を変更したところ、いくつかの意見が頂け、なかには職員の意欲にも繋がるような意見もあったとのことで成果を得ている。又日頃から家族来訪時にはこちらから声を掛け、聞く姿勢に努めたり、施設全体でアンケート調査を実施する等機会を設け、内容を受け止め運営に反映させるよう取り組んでいる。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会や各種委員会には出来るだけ施設長が参加し、職員の意見や要望を聞き、施設運営に活用している。また、必要であれば個人面談も行い職員の率直な思いも聴いている。	施設内には各種の委員会があり、職員は必ずいづれかに所属し活動をする中で、意見や提案をする機会ともなっている。また必要に応じて施設長面談を行い率直な意見を聞き、運営に反映させるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に1回、幹部会議を開き運営実績の報告や業績についてねぎらいの言葉をかけている。また、人事効果も取り入れ評価している。やりがいや向上心が持てる様有給を適宜取り入れたり業務改善を行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で実施している施設内研修や、複合施設勉強会を企画、立案し職員の教育に力を入れている。また、外部研修にも積極的に参加し伝達学習を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人での交流は行っているが、他施設で運営されている事業所との交流は少ない。外部の研修会や、施設内での研修に参加し、同業者との交流や、自己研鑽に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り1対1で対応しご本人の思いや希望を聞き、さらにコミュニケーションの構築に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来居された時の対応や接待時の対応には、特に注意し十分に時間をとり、ご家族やご本人の意向に沿うよう話を聞いている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の意向に沿うよう他のサービス利用も希望された時は対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	在宅生活で行っていた生活習慣を出来る限り取り入れ、継続して出来るようサポートしている。スタッフが共に行う事で、出来る事と出来ない事の分析も行い支援している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来居の際、日頃の生活の様子を細かく伝え、ご本人の状況に合わせてご家族の思いや希望に沿えるよう努めている。遠方の方にはある程度定期的に電話連絡し近況をお伝えし状況の共有に努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅で生活していた近隣の方の訪問にはスタッフも快くお迎えし、ゆっくり過ごせる場所の提供や共に過ごせる時間の確保に努めている。	家族や知人の来訪時には利用者の居室でゆっくりと過ごして頂くよう(部屋で一緒に食事など)配慮したり、家族の協力を頂きながら一時帰宅したり、畑作業に出向くなど、利用者が大切にしてきた人や場との関係や習慣等を尊重して継続できるよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者がスムーズに係われるよう事業所でスタッフが介入し、潤滑的な存在でいられるよう配慮している。また、入居者間での居室の行き来もトラブルがないよう見守り、ご本人の自由を束縛しないよう努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や医療機関に行かれた後も、ご家族からの問い合わせに対し相談を受けている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりに対し担当制をとっており、日々の生活の中からご本人の思いを聞き出せるよう努めている。また、カンファレンスを通しスタッフが同じ認識となるよう努めている。今年度はつづやきノートを活用し、ご本人の何気なく口に出した思いに沿えるよう実践に努めている。	センター方式の「私ができること・できないことシート」の活用や、利用者の担当制により、利用者を深く見つめるケアの中から思いの把握に努めている。又今年度「つづやきボックス」を設置し、何気ない声を拾い、直ぐ書いて入れるよう取り組み、利用者の思いや意向の把握に活用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅での生活経過についての把握は個々に行っているが、生活環境が変わってもその方らしく生活出来るよう、出来ることを取り入れながら生活して頂けるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	大まかな1日の生活メニューを組み立て、時には行事なども盛り込み、それぞれの身体状況に合わせ無理なくご本人のペースに合わせられるよう計画作りに努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の変化に合わせ担当者を中心にカンファレンスを開き方針の確認をしている。ご家族が来訪し近況をお伝えした際、希望や意見があれば反映するよう努めている。	利用者の担当者を含め、随時会議を設け介護計画の検討を行い、家族の来訪時に意向を把握し、担当者会議等により現状に即した計画を作成している。毎月のモニタリングに基づいた評価や修正を適切に実施している。また職員が読み取り易い計画書の記載方法の工夫等がサンプル的に行われており今後へ向け取り組み中である。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過記録を通し、その日の状況をスタッフの一人ひとりが把握し、更に申し送り重要なポイントを伝えている。状態の変化に伴い、その都度計画の見直しを迅速に行うよう心掛けている。また気づきを元に、方向性を統一する時はスタッフにわかり易く記載する事に努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的な事柄に終始せず、スタッフが対応できる事は(例えば通院介助や外からのサービス)柔軟に対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺のスーパーにスタッフと共に買い物に出向き、自由に買い物を楽しんだり、催しものを楽しんだりしている。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>在宅時のかかりつけ医をそのまま継続し、ご家族による受診介助を継続している。グループホームでの様子を「介護と医療の連携表」を通し、主治医と連携を図っている。またご家族の都合や身体状況の変化により、往診に切り替える方もあり、スムーズに受診できる様支援している。</p>	<p>利用者や家族が希望するかかりつけ医となっており、受診は家族が同行する。「介護と医療の連携表」を通して日頃の状況を伝え、受診後は主治医から報告や指示があり適切な受診支援が行われている。また法人内施設に歯科衛生士があり、歯科の指導や連携も図られている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>特別な変化が見られなくても日々の状況がつかめるよう看護職との連携が図れている。看護職はとらえた情報等を主治医に報告し受診に繋いだり、出来る処置は行っている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>急な入院の際、出来る限り早い時点で入院先の医療相談室と病状や経過、余後等について情報を頂き、退院時は迅速に帰居される準備を行っている。その際、ご家族も含め話をしていく。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に終末期のあり方についてご家族の意向を確認しご本人やご家族の思いに沿えるよう、今のグループホームとして出来る限りの支援に心掛けている。また身体状況が変化した場合、再確認を行っている。</p>	<p>入所時に「重度化・看取り支援に関する事前確認」の文書を用いて説明し、家族に記入して頂き、意向の把握を行い、状態に変化がある度に確認を繰り返しながら、意向に副った支援や方針の共有に努めている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>入職時のオリエンテーションや施設内研修で急変や事故発生時に備え、研修を受け対応できるよう学習している。</p>		
35	(13)	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>入職時のオリエンテーションや、年2回の避難訓練と水防訓練を地域の方の協力を得て行っている。今年度は夜間想定での訓練を行った。</p>	<p>今年度は運営推進会議に合わせた避難訓練や夜間を想定した訓練を行っている。複合施設としての通報手順や消火・避難訓練などを実施する中で、ホームとしても避難や搬送に関するシュミレーション等を行い備えている。</p>	<p>複合施設としての協力や、隣接する法人内施設連携は得られるとしても、グループホームは3階に位置しているため、エレベーターが使用できない場合を想定され、中央階段や外階段(環境点検を含め)をどのように避難誘導や搬送するか等について、より有効的な体制を整えて行かれるよう希望する。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを理解し言葉遣いや言動に注意し対応している。話しやすい雰囲気作りに努めるとともに慣れ合いにならない様、温かな雰囲気作りを心掛けている。	年間計画の中の様々な研修の中で、常に確認している。職員は言葉使いや目線の高さなどに留意して接し、人生の先輩として、また個人として尊重した対応に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意向をお聞きしながら思いに沿うよう働き掛けている。出来る限り誘導するのではなく、選択肢を提示しご本人の思いが表出しやすい様働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意思を尊重し、一日の始まりに何をしたいのかを確認しながら過ごして頂いている。その日の天気や体調にも配慮し、出来る限り希望に沿うよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着やパジャマの選択は、ご本人の希望に沿うよう一緒に関わっている。リビングに出向く際は整容・整髪に配慮し、気持ちよく過ごして頂ける様支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	複合の特性でメニューは決まっているが、それぞれの嗜好を聞きながらメニューに入れてもらっている。時にはフロアーでお寿司を注文したり入居者と共におやつ作りを準備から片付けまで行っている。	利用者の「美味しいもの食べたい！」の声や嗜好に副った食事になるよう努力している。ご飯とみそ汁はユニット台所で煮炊きし、盛り付けや後片付け・食器拭き等を利用者と共に行ったり、時にはおやつ作り(クレープ・お汁粉・フルーツポンチ等)を利用者と一緒に楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事時、おやつ時など摂取量や水分量等把握し、少ない時には好みの飲み物や補食を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、一人ひとり口腔ケアに関わり、個々に合わせたプランを選択している。必要な方には仕上げ磨きなどの支援を行っている。場合によっては歯科衛生士のアドバイスを受けている。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>入居者の排泄パターンを把握しトイレの声かけや誘導を行い失敗するが少なくなるよう意識している。</p>	<p>トイレは常に清潔で気持ち良い場所であることを心掛け、利用者がいつでも気持ちよく使えるトイレでの排泄を支援している。一人ひとりの排泄記録を通して職員で情報を共有し、車椅子使用の利用者にも排泄用品を見極め、状態に応じた排泄を支援している。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分を摂取を促したり、食べ物や適度な運動を心がけるように努めている。必要な方には医師に相談し薬を処方して頂いている。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている</p>	<p>入浴日や時間は決めず、出来る限りご本人の希望に沿えるよう日々努力している。</p>	<p>個室のリフト付き浴槽で、利用者の入浴したい日・時間に合わせて入浴して頂いている。入浴を拒む利用者にはタイミングや対応を工夫して入浴を試みたり、ゆっくり入りたい利用者にはゆっくり入浴をして頂く等、状態や意向に副った支援を行っている。</p>	<p>浴室のスペース等の環境は、家庭的とは言い難い印象を受ける。グループホームの浴室としては、少しでも利用者の不安感や羞恥心、抵抗感などに配慮して、安心できる入浴について、利用者の立場から全職員で話し合い、できる工夫をされるよう希望する。</p>
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>ご本人の生活リズムに合わせ、ゆっくり休めるよう就寝や起床の時間を決めていない。眠れるまでスタッフが付き添ったり、掛け物の調整をしたり工夫している。</p>		
47		<p>服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>内服の目的や副作用等についてファイルにまとめスタッフの目の届く場所に置き、時間のある時目を通せるよう配置している。食前食後薬・点眼等区別し間違えないよう工夫している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中でご本人の出来ることを大切に個々の作業を行ってもらっている。またご本人の生活歴の中から、新たに見出せた場合はそれを活かすように努めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限りご本人の希望に沿って外出できる様心掛けている。ご家族の面会時には、グループホームでの外出困難な場所へはご本人が希望を伝え、ご家族の支援のもと外出できる様関わっている。	職員は一人ひとりの希望や楽しみごとに合わせた外出を支援したいと心掛けている。計画的な外出として、初詣やイチゴ狩り、花見等を車椅子の利用者も楽しめるよう支援している。また、時には家族やボランティアの協力を頂き個別の外出支援に努めている。	環境上や体制上の課題はあるとしても、一人ひとりの習慣や楽しみ事に合わせて、積極的に外出支援できるよう、また利用者の気分転換や、いきいきと過ごせる生活支援に向け、知恵を出し合い工夫をして行かれるよう期待する。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物はスタッフが付き添い、支払いは出来る限りご本人が行えるよう見守っている。出来ない場合でもご本人の気持ちを尊重し、出来る限りの支援に努めている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話をかけたい時は支援を行っている。手紙のやり取りも頂いたら返事が書けるよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その季節に応じた装飾をしている。温度調節や遮光等心地よい環境作りが出来るよう配慮している。	共用空間は常に清潔で不快を招くような事のない、気持ち良い環境づくりを大切に取り組んでいる。室温・湿度、光や空気等へ細やかに配慮され、壁にはそれぞれの利用者が作成した作品を飾り、楽しみを共有できる空間となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや、カウンター・キッチンテーブルなどでも居心地の良い空間作りを心がけ、入居者同士がゆったり出来るよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みのあるものを持ってきていただいたり、ベッドやチェストの位置はご本人やご家族の希望に合わせ、居心地良く過ごせるよう配慮している。	居室はベッドやチェスト・洗面台等があり、家族来訪時には居室でゆっくり過ごして頂いている。使い慣れた物や大切な物を思い思いに持ち込んで頂き、その利用者らしい生活が継続できるよう配慮している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが安全に作業できる様食器や文房具を配置している。手の届く範囲で自由に持ち出せるよう工夫している。	/	/

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
事業所番号					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心の触れ合いと笑顔を大切に」という施設理念を各ユニット・正面玄関に掲示するとともに、新入職員にはオリエンテーションの中で、施設理念に関する講義に盛り込むとともに、業務中も利用者やご家族が来訪された際、意識して対応するよう心掛けている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会運営の避難訓練に参加させて頂いている。施設で行われる5月の防災訓練や10月の水防訓練は地域住民の方に参加して頂いている。今年度は8月の豪雨の際、地域住民はもとより観光にこられた方々の一時避難所として施設を開放した。暮れの餅つき大会・冬場の雪かきなど例年の行事は地域の方々と共に行っている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 http://www.kaigokensaku.jp/	民生委員や各自治区の見学等を受け入れている。また、施設長自らが、実習担当として福祉大学校の講師や実習指導を務め、地域貢献の一助としている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年4回開催している。会議ではご利用者状況や職員構成、職員研修報告や事故・苦情・行事等の報告をさせて頂き、委員の皆さまより頂いた意見を介護サービスの運営に活かしている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議はもちろん、行政主催の学習会や広域連合との連携を図っている。また今年度は介護相談員の受け入れを行い、実情をお伝えする事が出来た。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営規定や重要事項説明書に明文化している。また、入職時のオリエンテーションや施設内研修では5月に「身体拘束廃止」の講座をとりいれ勉強会を実施している。拘束廃止委員会も設置し、法人全体として取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に高齢者虐待防止関連の情報を収集し、他施設で起きてしまった虐待例を職員掲示板に掲示し職員に周知している。また、日々の業務の中でも虐待が見過ごされる事のないようスタッフへ周知し、虐待予防に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフは成年後見制度を利用している方がいる事は理解している。社協の金銭管理を利用している方もいる為、制度について更に知識が深まる様学習会を検討している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度十分な時間を確保し、キーパーソンになられる方はもとより、出来る限り介護に参加されている方に対して説明が行えるよう努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設玄関窓口に苦情・要望受け付け箱を設置し、苦情等があった場合には、ユニットおよび幹部会議で話し合い、改善策や回答を掲示している。また、1年に1回ご利用者様満足度調査アンケートを実施し、アンケートより頂いた内容についての回答も掲示している。苦情・要望受け付け簿の内容やアンケート結果については、運営推進会議においても報告している。今年度はユニット入り口に意見箱を設置し要望の把握に努めている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会や各種委員会には出来るだけ施設長が参加し、職員の意見や要望を聞き、施設運営に活用している。また、必要であれば個人面談も行い職員の率直な思いも聴いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に1回、幹部会議を開き運営実績の報告や業績についてねぎらいの言葉をかけている。また、人事効果も取り入れ評価している。やりがいや向上心が持てる様有給を適宜取り入れたり業務改善を行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で実施している施設内研修や、複合施設勉強会を企画、立案し職員の教育に力を入れている。また、外部研修にも積極的に参加し伝達学習を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人での交流は行っているが、他施設で運営されている事業所との交流は少ない。外部の研修会や、施設内での研修に参加し、同業者との交流や、自己研鑽に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個々の能力を重視し、その方に合った対応に努めている。さらにコミュニケーションの構築にも努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来居された時の対応や接待時の対応には特に注意し、十分に時間をとり、ご家族やご本人の意向に沿うよう話を聞いている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の意向に沿うよう、他のサービス利用をご希望された時は対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意なこと等見出し、出来る事は職員と共同して行っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族やご本人との繋がりを大切に、ご家族も含めご本人を支え合うよう取り組んでいる。疎遠になりがちなお家族には、電話で近況報告し、来訪して頂ける様努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩の際には馴染みのある公園等に立ち寄るよう心掛けています。年賀状などを書いたり、外出外泊の機会を設けて頂くよう努めている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等の参加を促したり、配席に注意したり、状況に応じて入居者同士の会話の間に入り関係作りに努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や医療機関に行かれた後もご家族からの問い合わせに対して相談を受けている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人との会話や日々の様子を見ながら意向をくみ取るよう努力している。時には独り言のように呟く言葉から意向を把握できる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談の中からお本人の生活歴・趣味等今までのサービスの経過を聞き、全員が把握できるよう努めている。ご家族の面会時にも昔のことを聞いている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々様子を細かく記録に残し、焦点情報を作成し、1日の過ごし方や有する力の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主に担当者を中心にカンファレンスを行ったり、ご家族の面会時に聞き取りをし、計画に反映するよう努めている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は時間に沿って詳細に残し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族からの相談や希望に対して通院介助や他のサービスの紹介なども行うよう努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催しものに出向いたり、外出の際ボランティアの方々にも協力して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>在宅時のかかりつけ医をそのまま継続し、ご家族による受診介助を継続している。グループホームでの様子を「介護と医療の連携表」を通し、主治医と連携を図っている。またご家族の都合や身体状況の変化により、往診に切り替える方もあり、スムーズに受診できる様支援している。</p>		
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>特別な変化が見られなくても日々の状況がつかめるよう看護職との連携が図れている。看護職はとらえた情報等を主治医に報告し受診に繋いだり、出来る処置は行っている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>急な入院の際、出来る限り早い時点で入院先の医療相談室と病状や経過、余後等について情報を頂き、退院時は迅速に帰居される準備を行っている。その際、ご家族も含め話をして</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に終末期のあり方についてご家族の意向を確認しご本人やご家族の思いに沿えるよう、今のグループホームとして出来る限りの支援に心掛けている。また身体状況が変化した場合、再確認を行っている。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>入職時のオリエンテーションや施設内研修で急変や事故発生時に備え、研修を受け対応できるよう学習している。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力的体制を築いている</p>	<p>入職時のオリエンテーションや、年2回の避難訓練と水防訓練を地域の方の協力を得て行っている。今年度は夜間想定での訓練を行った。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人権を尊重しながら、生活歴を出来る限り把握し、その方に合った声掛けや対応に努めている。守秘義務については日々意識して業務にあたっている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事や入浴日などご本人の希望に沿えるよう自己決定できる場面を作っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日課は決まっているが、離床時間や入浴の希望等出来るだけご本人のペースを尊重するよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	全室個室の為居室には洗面台やチェストなどが備え付けられ、いつでも洗面や整髪などが鏡の前で行えるようになっている。職員も様子を見ながら支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、片付けなど入居者と一緒に行っている。好みの物が提供できる様委員会を通し委託業者へも伝えている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは管理栄養士が作成しており、栄養バランスの考えられた食事の提供が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後声かけや見守り介助を行い口腔ケア表をもとに行っている。炎症などがある時には看護師や歯科衛生士に相談し対応している。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>ワークシートを活用しながら、トイレ誘導を行いトイレでの排泄を心掛けている。一人ひとりの排泄時間を確認しながら、出来るだけ汚染が少なくなるよう支援している。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>必要時は看護師、医師に相談しながら下剤の内服を行っている。その他、食事形態の工夫や適度な運動・飲水等に心掛けている。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている</p>	<p>入浴日や時間は決めず、出来る限りご本人の希望に沿えるよう日々努力している。</p>		
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>午睡等ご本人の生活習慣に合わせて休めるよう支援している。安心して眠れるよう声掛けをしたり、眠れない時は添い寝するなど工夫している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		<p>服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>内服の目的や副作用等についてファイルにまとめスタッフの目の届く場所に置き、時間のある時目を通せるよう配置している。食前食後薬・点眼等区別し間違えないよう工夫している。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>一人ひとりの生活歴や嗜好に合わせて役割が持てるよう作業等の提供をしている。また、得意なことや趣味を活かせるような余暇時間が過ごせるよう工夫をしている。</p>		
49	(18)	<p>日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>散歩の機会を持つよう心掛けている。ご本人の希望を聞いたり、時にはドライブに出かけている。また、ご家族やボランティアの方に協力して頂き、外出の機会を設けている。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>小額を入居者の希望により自己管理している方もいる。普段は事業所で管理している方も買い物の際自分で支払いが行えるよう支援している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望時には電話がかけられるよう支援している。年賀状などはご本人の希望を聞いて書けるよう支援している。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>温度調節・遮光等心地よい環境が作れるよう配慮している。季節感を味わって頂けるようにユニット内に装飾品等を飾り、見て楽しんで頂けるよう工夫している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースで一人で過ごせる場所は少ないが、居室でゆっくり過ごして頂けるよう支援している。また、ゆっくりくつろいで頂けるようお茶・コーヒーなども提供している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談しながら筆筒や布団を持参して頂き、ご本人の過ごし易い環境を整えられるよう配慮している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの入居者が安全に自立した生活ができるよう環境整備を行っている。また、表札などを作り場所の確認ができるよう工夫している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

事業所番号					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	17	浴室のスペースなどの環境については家庭的とは言えない雰囲気となっている。	現在よりも入居様が安心して抵抗感なく入浴できるよう、家庭的な環境づくりに努める。	目でも楽しめるような工夫をして観葉植物を置いたり、入居者様の作品などを浴室におけるような工夫をする。	12ヶ月
2	18	現在冬場ということもあるが、日常的な外出支援とまでは至っておらず、外出頻度の少ない方もいる。	施設のスタッフに限らず地域資源を活用し、外出の機会を増やす。	外からのボランティアも取り入れ、外出できるよう働きかけていく。	12ヶ月
3					
4					
5		http://www.kaigokensaku.jp/			

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。